

1 単元名 自分の命を守るために何をするか

2 単元の目標

地震災害時において自分の身を守る方法を調べたり考えたりする活動を通して、地震発生時には、自分の備えだけでなく、地域の協力体制が必要であることを知り、地域の防災意識を高めるために自分たちにできることを考えることができる。

3 単元について

(1) 単元における探究課題・育成を目指す資質・能力

＜探究課題＞地域の防災や安全な町づくりとその取組		
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 被災後には、様々な問題が起こることを知り、諸問題に向けての対策や地域の協力体制大切であることが分かる。 既習事項から思考ツール等を活用しながら活発な話し合いや課題の把握・解決、発表資料の製作等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りについて見直し、今からできる必要なことは何かを見つけることができる。 避難所運営委員や家族、学校等、相手に応じて、伝えるべきことは何かを適切に判断できる。 防災への意識が高まるように、内容や伝え方を工夫して発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災について関心を高くもち、進んで今からできることを準備したり意識したりすることができる。 万が一の時には、自分にできることに取り組もうと考えるなど協力体制をとっていこうとする。

児童の実態

- ・ 明るい児童が多く、与えられた課題には一生懸命に取り組むことができる。
- ・ 地震から発生する問題について単語は知っていても対処法などを知っている児童は少ない。
- ・ 地震発生時に集まる場所を決めていたり、災害の備えをしていたりする家庭は少ない。

地域の材について

- ・ 開校創立15年目を迎える。地域として若くつながりが深いとは言えない。
- ・ 避難所運営委員も開設されており、会合も行われている。しかし、自治会ごとの避難訓練は参加者も少なく運営委員の関係者に偏っている。

教師の願い

- ・ 地震災害時における自助を学び、地域の防災への取り組みを知り自分たちに何ができるのかを考え、地域をよりよい町にしていこうという思いを育みたい。
- ・ 探究的な学習の流れや意図を確認しながら、それぞれの楽しさを実感できるように話し合いの場の工夫や思考ツールの活用などをして、児童が主体的に活動できるようにしていきたい。

(2) 児童の実態

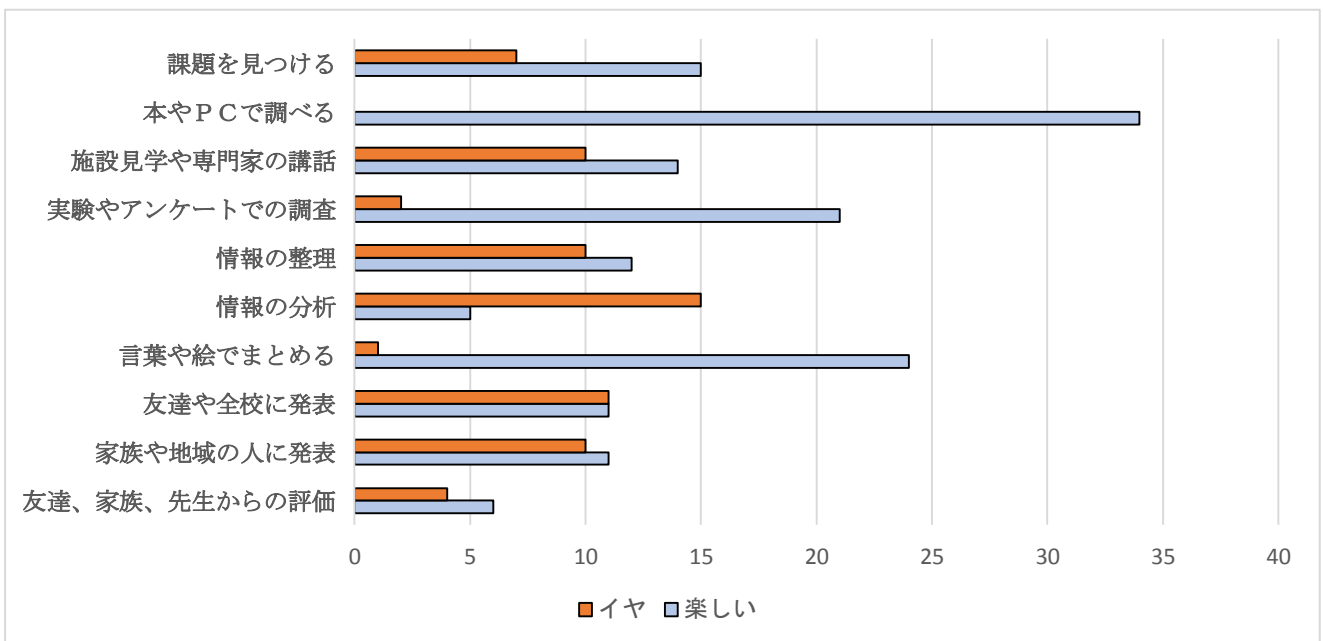
本学級の児童(男子19名 女子19名 計38名)は、明るく活発で、与えられた課題には一生懸命に取り組むことができる。4月当初は、相手の立場や思いを考えずに自分の思うままに発言する児童もいたが、全体的に少しずつ周りの意見を聞こうとする態度が見られるようになってきた。

総合的な学習の時間への意欲は、「好き」「どちらかというが好き」と回答した児童が33名、「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童が5名いた。心に残っている、生活に生きているという質問に対しては、4年生での水にかかわる記述が多かったことから、自分たちの生活に直接関係する内容のため意識が高かったと思われる。またわざわざだか、発表することやグループで協力することなどの学習の仕方に目を向けることができている児童もいる。楽しさを感じる活動では、情報収集に関わること、情報をまとめることの数値が高かった。あまり考えずに取り組むことのできる活動については、どの学力層の児童も取り組みやすいからと考える。しかし、嫌な活動では、情報の整理・分析と発表に関わる数値が高く、自分で考えたり人前で考えたことを伝えたりという活動に苦手意識があることが分かった。

・総合的な学習は好きですか？

好き	どちらかというが好き	どちらかという嫌い	嫌い
14	19	4	1

・総合的な学習で楽しいと思う活動はどのようなものですか？



・3～4年生の総合的な学習で活動した中で、心に残っていたり、今の生活に生かされていることはありますか？

ある	19
ない	19

水や節水についての知識や態度、取り組み 14 昔のものや道具(伝統) 3
 昆虫 1 モノレール 1
 発表について 3 グループで協力 1

地震についての意識調査を見ると、「とても怖い」「怖い」を合わせると、8割を超える児童が地震に対して少なからず怖ろしさを感じている。東日本大震災時は、2、3歳だったことから本人たちの記憶はほとんどない状況だが、家庭やマスメディア等から怖ろしいものであるという認識があると考えられる。

地震後に起こる災害については、おゆみ野での発生が考えにくい津波が一番多く挙げられた。これも実体験より、周りからの情報を受けての認識であると考えられる。起震車を活用し、実感の伴った理解を図れるようにしたい。また、土砂崩れや家事、停電等の災害については避難したり、その場の対処をしたりする方法は理解できている児童が多い。自分や家族で地震に向けて話し合ったり、準備したりしている児童は約半数であった。児童たちは、まず自分の命を守るためには自助に目を向けるであろう。そこから一つでも多くの家庭で話し合ったり、準備したりする機会を増やしていきたい。そこから、さらに、命を守る可能性を高くする共助に目を向けられるようにしたい。

・地震についてどう思っていますか？

とても怖い	少し怖い	怖くない	分からない	その他
23 (60%)	8 (21%)	3 (8%)	2 (5%)	2 (5%) (大きかったら怖い)

・地震の後に起こる災害について、いくつ知っていますか？

また、その災害から身を守ったり、助けてくれたりすること・物は何か知っていますか？

地震の後に起こる災害	回答数	その災害から身を守ったり、助けてくれたりすること
津波	27	避難場所13、堤防5、ボート2、大きい旗、ヘリコプター、消防隊、食料、水、ラジオ
土砂崩れ	18	避難場所7、森林3、非常食
火事	15	消火器8、消防隊5、水5、煙探知機2、ハンカチ2、マスク、避難場所、防災頭巾
停電	6	懐中電灯・ライト6
建物倒壊	4	避難・戻らない2、ヘリコプター
落下物	4	机2、守るもの
食べ物がなくなる	4	缶詰・非常食3、水、
爆発	2	
液状化現象、地割れ	2	ヘリコプター
余震	3	机、2ヘルメット2、頑丈な建物

・これから起こるであろう地震に向けて、自分や家族で準備しているものや話し合っていることはありますか？

食糧・水13、非常用バッグ6 懐中電灯4 避難場所・待ち合わせ場所5 避難方法3、連絡を取り合う方法1

4 研究主題に向けての視点

視点1 になりたい自分・目指す姿を意識した単元構成の工夫

○自助→共助を意識した防災学習

防災の意識としても、子供の思考としても「まず、自分の命は自分で守る（自助）」から「共に助け合って生き延びる（互助・共助）」に移行していく流れがよいと考える。

防災の考え方として、第一は死なないこと・家屋財産を失わないことを最優先して対策すると言われている。だからこそ、どんな状況であれ、自分も自分の命を守るために、自分の家や財産、思い出を守るためにできることをまず学習していきたい。

そして、時間が経つと近隣や避難先での協力が必要になってくる。そんな時、一人でも多く防災に関する知識がある人が多くいることで、適切な対応や安心した生活を送ることができる。東日本大震災でも、学校に避難してきた地域の方々のために、学生が主体的に働きかける場面が紹介されていた。何年後に被災するかはわからないが、上記にあるように近い将来に起こると言われているため、この子たちの世代の働きかけは大切になると考える。だからこそ、学習の成果を広げることで、互助・共助の考え方を広めていきたい。

○外部の人材活用

本やパンフレット、PCからの情報だけではなく、地域の方や市役所の方との関わりをもった活動を設定し、児童が探究課題に対してより真剣に、より現実味を感じられるようにしていきたい。

児童にとって一番身近である学校や地域、市が防災に対してどのような考え方を持っているのか、そして自分たちに期待していることなどを実際に聞くことで、防災意識は高まっていくと考える。また、このような関わりから関係が深まり、有事の際の協力体制の強化にもつながると考える。

また、まとめ・表現の場の対象としても地域に目を向けていきたいと考える。地域の方や市役所の方から話を聞きくことで、地域全体で防災についてより意識を高めていかななくてはならないと考えるだろう。

校内だけにとどまらず、いろいろな方から意見をもらえることで、まとめ・表現する楽しさを感じたり意義を理解したりすることで、今後の活動の主体的な態度につなげていけると考える。

視点2 主体的・対話的で深い学びを生む学習指導の工夫

○目的を明確にした体験活動

地震を素材とする単元では、本当の地震を体験することはできないため知識偏重の学習となる可能性がある。そこで、第1サイクルの自助のまとめで、起震車を活用して地震疑似体験を行う。ただ、起震車を利用するだけでは、地震について必要以上の恐怖をもってしまったり、体験活動から「楽しかった」「驚いた」以上の思いが生まれなかったりすることも考えられる。そこで、夏季休業中に情報収集したり実践したりした内容を時系列に表にまとめ、今まで避難訓練で行っていることや自分の家の備えが本当に有用なのかを確認するために、起震車を活用していく。そうすることで、実感を伴いまだ足りない点について主体的に活動を進めることができるだろう。

第3サイクルの情報収集では、そなエリア見学、非常用トイレ設立体験を行う。第3サイクルでは、おゆみ野の防災体制を知り、地域の防災意識を高めるために自分たちにできることを考えようと課題を

もち学習を進める。しかし、自分たちにできることがまだ不明確な児童もここでは、多いだろう。そこで、自分たちにできることを探すためにそなエリア見学から他地域の防災体制や防災に関わるグッズについて情報を収集する。そなエリアで得た知識を実践したいという児童も出てくるだろう。その中から本校でも可能な非常用トイレの設立体験を行うという流れで学習を進めることで、体験活動の目的が明確になり、より深い学習に繋がると考える。

○児童の課題意識・意欲を高める発問・板書の工夫と思考ツールの積極的な活用

学習を展開する中で、発問（特に主発問）の文言やタイミングをよく考え、計画的に行っていく。活動の状況によって発問も違ってくるので、いくつかの場面を想定しながら深い学びにつながるように発問も状況に応じたものを準備しておく。また、できるだけ短い言葉にまとめ、児童の思考の流れを妨害しないようにしていきたい。

板書についても、活動内容や児童の思考の流れなどが明確になるよう、学習場面を想定しながら計画的に行っていく。深めていきたい活動内容に応じて、言葉を線でつなげたり色分けしたり、思考ツールを活用しながら比較、分類、関連付けなどを行い、探究活動の深まりや活動の振り返りにつなげていきたい。

視点3 変容が実感・認識できる評価の設定

○自己評価カードやルーブリックで身に付けたい資質能力を自覚する

児童には、単元の前・中・後にこの単元で身に付けてもらいたいことを示した自己評価を行う。これを行うことで、児童は単元全体を通してだけでなく、各活動においてのめあての指針となり、力の向上に向けて努力したり、成果を振り返る中で自己への自信につながったりするはずである。また、友達や教師からの見る視点も定まり、より子供が変容を実感・認識できる声掛けや賞賛ができるようになると思う。

自己評価カードの規準だけでは、そこに至っていない児童については、過程が想像できないこともあるだろう。そこでルーブリックを活用し、評価の基準を示すことで、児童がどのように学習に取り組んでいけばよいか考える一助とする。

○活動の足跡をたどれる掲示物の作成

毎時間や定期的な活動の振り返りも大切であるが、65時間と長期にわたる単元でもあるので、数か月前の活動の様子やその時に感じた思いや言葉は忘れがちである。こういった思いや言葉を、写真や吹き出し、学習ノートのコピーなどで丁寧に残し、掲示しておくことで変容が実感・認識できると考える。活動の目的がずれてきたり、停滞したりしたときなどにも活用していきたい。

5 単元構想（65時間）

次	主な活動内容	外部連携	活動形態	他教科横断・合科
① 自分の命を守る方法を調べよう	○課題設定1 ・災害にはどんなものがあるか考えたり、それぞれの災害の起こる確率を知ったりすることで、「地震」について関心をもつ。 ・地震が起きた時に自分がどのような行動をするのかを考える。		学級 学級	
	○情報収集1・整理分析1 ・南小の災害用備蓄倉庫の見学する。 ・自分の身を守るにはどうしたらよいか考える。 ・本やインターネットで自助の方法を調べる。 ・夏季休業中に家庭で災害用品の確認や学校から避難場所への避難経路を歩いてみる。 ・夏季休業中に情報収集したり、実践したりしたことを報告し合い、整理分析する。		学級 個人 学級 個人	体育 「心の健康」 家庭科 「かたづけよう身の回り」 社会 「国土の気候の特色」
	○まとめ表現1 ・起震車による地震体験をする。 ・学習したことが有事の時に実行できるか振り返る。 ・防災対策課から避難所運営の様子を伺う。 ・自分たちが準備した事柄で十分なのかを振り返る。	千葉市防災普及公社 千葉市役所防災対策課	学級 個人	国語 「敬語」
② おゆみ野の防災の取り組みを知ろう	○課題設定2 ・防災対策課の方の話をもとにおゆみ野の避難所運営や防災体制について知ろうという課題をもつ。		学級	
	○情報収集2 ・避難所運営委員からおゆみ野の避難所運営やおゆみ野の防災体制について伺う。	避難所運営委員 守さん	学級	
	○整理分析2 ・避難所運営委員から伺った話をもとに、おゆみ野の防災体制や避難所運営の様子や課題について整理分析する。		グループ 学級	道徳 「規則の尊重」

③ 自分たち にできる ことを考 えよう	○課題設定3 ・おゆみ野の防災体制や避難所運営の様子や課題について、前時に整理分析したことをもとに避難所運営委員に自分たちのできることを伝えようと課題をもつ。			
	○情報収集3 ・地域とどのように協力をすればよいのか情報収集をする。 本、インターネット、そなエリア見学	そなエリア	個人 学級	算数 「割合」
	○整理分析3 ・情報収集した内容からどのように地域と協力していけばよいのかを考える。 本時		個人 学級	
	○まとめ表現3 ・避難所運営委員に自分たちが地域と協力できることを伝える。	避難所運 営委員		国語 「話し言葉と 書き言葉」
④ 自分たち にできる ことをし よう	○課題設定4 ・避難所運営委員からのアドバイスをもとに取り組みをさらによくしようという課題をもつ。			国語 「活動を報告する 文章を書いて文 章にまとめよう」
	○情報収集4 ・総合ファイルや掲示物を活用し、単元の流れを想起する。			
	○整理分析4 ・アドバイスやおゆみ野の防災体制の現状をもとにどのように改善できるか考える。		学級 グループ	
	○まとめ表現4 ・自分たちにできる地域と協力する取り組みをする ・成果と課題を振り返る。 ・活動を振り返る。		学級 個人	国語 「活動を報告する 文章を書いて文 章にまとめよう」

6 本時展開の小单元について

三次 自分たちにできることを考えよう

過程	主な学習活動(・) 主な過程の通過点(□)	時数	地域の材の活用(◆) ツール等の活用(◇)
課題 設定	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策課の方から聞いた話前時に整理分析したことをもとに避難所運営委員に自分たちのできることを伝えようと課題をもつ。 <div data-bbox="276 557 954 647" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> どのように地域と協力していけばよいのだろう。 </div>	①	◇KWL表
情報 収集	<ul style="list-style-type: none"> 地域とどのように協力をすればよいのか情報収集をする。 本、インターネット、そなエリア見学	⑦	◇KWL表
整理 ・分析	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集した内容をもとにどのように地域と協力していけばよいのかを考える。 1 地域のどんな人を対象にどんなことをするのか考える。(個人) 2 地域のどんな人を対象にどんなことをするのか考える。(グループ・全体)	③ 2/3 本時	◇くま手チャート ◇座標軸
まとめ ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 避難所運営委員に伝えるための準備をする。 避難所運営の現状と課題を知る。 避難所運営委員に自分たちが地域と協力できることを伝える。 <div data-bbox="309 1765 987 1845" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 頂いた意見をもとに取り組みの内容をよくしよう。 </div>	⑨	◆避難所運営委員

18分	<p>5 考えた取り組みを全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童には伝えられるけど、低学年は家の人に上手く伝えられないから、効果はなさそうだよ。 ・パンフレットは、色々な人に見てもらえるかもしれないけど効果があるか分からないよ。 ・実際に教えて、体験してもらえれば反応も分かるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハンドサインを活用し、スムーズに発表に対して質問を言えるようにする。 ○思考ツールを活用することで、可能な効果があるかを捉えやすくする。 ○教師が相槌を打ち、児童が発表しやすい雰囲気を作る。 ○児童の思考が残るように要点をまとめて板書する。
7分	<p>6 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題と学習の経過を確認し、本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を振り返り、考えたことを自由に書くよう伝える。

板書計画

